

## 大切な由美ちゃんへ

兵庫県  
南あわじ市立北阿万小学校 五年

正木 太樹

ぼくは、お父さんの妹が七月に結こんして、いつも会っていた人が家からいなくなったらこんなにもさびしいと言う事に気が付きました。

ぼくがいつばいいじわるをしても何もおこらないで遊んでくれたり、おくりむかえをしてくれたり、勉強を教えてくれたり、とつてもやさしい由美ちゃんでした。そんな由美ちゃんが結こんすると聞いた時、うれしかったけどものすごくさびしかったです。ぼくの由美ちゃんじゃなくなると思ったからです。結こんする前にぼくは由美ちゃんに今までのお礼をしたかったのでお母さんに何をしたらいいのか聞きました。お母さんは「あなたがしてあげたいと言う気持ちが一番のプレゼントになる。」と言ってくれて、考えたのがケーキを自分で作ると言う事にしました。スポンジは、むずかしいので買ってきたスポンジに生クリームをつけて、イチゴを切って色んなくだものをのせて由美ちゃんが大好きなハート型に切り抜いたスポンジもおいて、ありがとう。とメッセージを入れました。見た目はあまりきれいじゃなかったけど、「上手にできとるやん。ありがとう。」と

言つてもものすごくよろこんでくれました。

ぼくが思っている事を言うのははずかしいから手紙に書きました。由美ちゃんは、ぼくが帰ってからへやで二人で読んで「ありがとう。」って泣いたと言っていました。

ぼくは、結こん式では泣かないと決めていました。でも、由美ちゃんが泣いているのを見て知らないうちになみだが出てきました。小さい時から今までの事を思い出しました。

ぼくは、初めて大好きな人がいなくなるとこんなにさびしんだと言うことがわかりました。いつも一つしょにいるとわからなかった事も別れる時にはわかるんだと思いました。お母さんに言う時、「だから、友達は大事にしないといけない。自分が人にしてあげる事は、必ず自分にかえてくる。いい事も悪い事も。」と言われました。ぼくは、こんな気持ちになったのは初めてなので由美ちゃんも同じ気持ちでいてくれると思うとうれしいです。

今までいつばいいじわるした事、ごめんさい。いつばいい遊んでくれてありがとう。ぼくはこの気持ちに気づいてうれしいので大事にしていこうと思いました。